

# KAPD ウイップズ Weeds

くまもと『障害者』労働センター

1994年1月号

## 謹賀新年

昨年中は労働センターに牛乳パックの回収やセンターの品物を購入頂き有り難う御座いました。昨年はリサイクル推進県民大会での表彰をはじめ朝日福祉事業団から印刷機をいただき、他の団体からも寄付や助成金をいただき、「トフルムービー」上映会を行い、皆さんとも交流ができて大変良かったと思います。今後とも皆さんと共に地域で頑張つて尚、年始は一月一〇日からです。一九九四年一月

〒八六二 熊本市保田窪本町五一一九  
FAX共通(096)382-1086  
くまもと障害者労働センター一同





登録をするメンバー

## 障害者の日 全国行動 求職登録をして

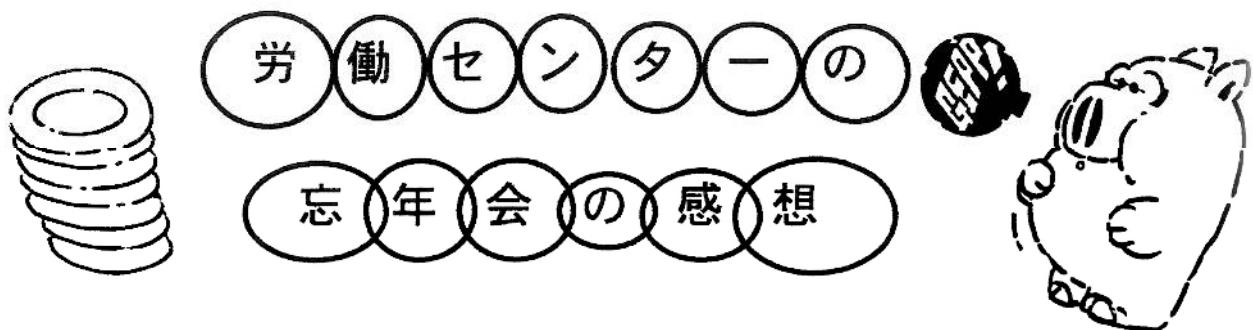
12月9日は、労働センターの5名で熊本職安に求職登録をしました。私達が中に入ると、職安の人はびっくりされて何事かと言う感じだったけど対応は悪くなかったので良かったです。そして、一人ずつ分かれて障害のこと、労働センターのことなど色々聞かれました。それで、就職の希望を聞かれましたので、事務の電話対応を希望しました。係りの人と色々話をしているうちに私がアパートで一人暮らしをしていると言ったら、それからは仕事の事より私の生活のことを次々に聞かれたので就職の話をしに来た

のか自分のことを話にきたのか分かりませんでした。

私も求職登録したので、もう少し就職のことについて話したかったと思いました。それと私の係りだった人が年配の人だったので若い人が良かったと思い、ちょっと残念でした。

最後に気付いた事だけと、自動ドアが押しボタン式で自分一人で職安に行ったときは、やりにくいと思うので、考えてほしいと思いました。

吉村 春美



12月11日、夕方6時～9時まで忘年会をしました。リサイクルオークションもしました。リサイクルオークションの品物があまり集まらなかつたので心配していたら思ったより沢山持ってきていただいたので嬉しかつたです。品物を持ち込んで頂いた皆さんありがとうございました。人数も少ないかと思つて心配してましたが、30名ちかくの方に集まつて頂きセンター一同嬉しく思つてます。それと駐車場がわからなくて帰られた方には申し訳なく思つてます。また是非おいで下さい。お待ちしております。学校関係の皆様には案内が遅れて申し訳ありませんでした。

司会は野口がさせていただきました。司会がうまく行かず申し訳ありませんでした。私の小学校の時の担任の一甲先生が来て下さつたのでとってもうれしかつてです。小学校の時は一甲先生に良くして頂きました。今も牛乳パック回収、品物を沢山買ってもらいお世話になつてます。皆さんも労働センターの品物を買って使って頂けたらと思ってます。

二次会も労働センターでしましたけど二次会は少なかつたので少し寂しかつたです。二次会は他の場所に行かれた方もいらっしゃいました。

三次会は野口と吉村さんと倉田さんとあと一人山田三希子さんと四人でカラオケボックスに歌いに行きました。

皆様、本当に忘年会におこし下さいましてありがとうございます御座いました。皆様が来て下さつたおかげで楽しませていただきました。皆様、これからも労働センターをご支援ご協力宜しくお願ひします。皆様、体調を崩されないように。

忘年会ご出席の皆様、ありがとうございます御座いました。

野口 美枝子

シリーズ その一

## アルコール依存症を知る！

アルコール飲料を長期にわたって連用していると、だんだんと強くなつて大量に飲まないと酔わなくなる。やがて酒による問題が出始め、歳とともにひどくなつていく。しかし、いつでも飲める酒がないと不安になったり、飲酒が悪いと分かっていても、飲まないで辛抱することができない。アルコールの量をひかえたい、止めたいと思っても自分ではどうすることもできず、飲み��けてしまう。

どうしてこうなるかというと、アルコールの持つ依存性によって、アルコール依存症が発病したためである。日本では200万人以上の人人がこの病気に掛かっていると推定されている。

この病気の主な特徴は、酒の飲み方に問題が出てくることと、アルコールが切れてきたときに起きる「離脱症状」である。

### 1 酒の飲み方の変化

一口で言えば、アルコールをコントロールして飲むことができなくなった（コントロール障害）ということである。この病気になった人は少量でもアルコールを口にすると、ほどよい量で切り上げることができないので、やがて必ず酒による問題を起こしてしまう。つまり飲みながら正常な日常生活をすることは、もはやできなくなっている。これが正常な大量飲酒者とアルコール依存症者を区別する大切な点である。つぎの唄の文句がこの事を良く表している。

ちょいと一杯のつもりで飲んで いつの間にやらはしご酒  
気がつきゃホームの ベンチでごろ寝  
これじゃからだに いいわけないよ  
わかっちゃいるけど やめられない（青島幸男 作詞）



続く

編集長

連載 北野 誠一 講演録 No.3  
「障害者運動と共同作業所・共同事業所運動の展望」

もう一つは、後で説明しますけれど、皆さんがやっている運動が最後にはきっと勝利をする方法というのがあるんです。これは草の根の運動というのは、最後は、ただのサービス提供機関とか、リハビリテーション機関というのと違う大きな強みがあるんですから、それを活用することによって、運動を勝利できる方法というのを彼らは編み出していったんです。その事については、後でゆっくり話します。ともかく、アメリカの自立生活運動というのは、運動の戦略を立てて、目標を定めたら必ず勝利する方法を、きっちり生み出して來た。そういう意味で、アメリカの運動は勉強する価値があると思います。

それから、二つ目。「欧米のピープルズ・ファースト運動」ですが。六月にカナダで「ピープルズ・ファーストの世界大会」が開かれました。テレビでも放映されましたから、見られた方もあるでしょう。私は、仕事でいけなくて残念でしたが。知的障害の方の、ピープルズファースト、自分たちの制度、法律、グループ、施設、作業所などを知的障害の方も自分たちで出来るだけ運営したい、自分たちの発言を反映させたいという願いがこもった活動なんですが。共同連の皆さんには、理解してくださると思いますが、他のところでは、なかなか分かってもらえません。「知的障害の方っていうのは、はじめからそんなこと出来ないじゃないか」、とかってに思い込んでおられます。私は、十年ほど知的障害、情緒障害の子どもたちといっしょに、灰塚

市でいろんな活動をしていましたので、知的障害のことどもたち、あるいは情緒障害の子ども達が自分の意見を持っているけれども、うまく表現すること、相手に伝えることが難しいということを知っています。逆に言えば、周りにいる人間が、理解する力を身につける事が大事なのです。発言する力を身につける、理解する力を身につける、お互いが努力しなければ、知的障害の方はいつまでも、専門家とか指導員とか言われる方の言いなりになってしまうという状況なんです。そういうことを、これはおかしい、ということは理解がある関係者のあいだでは分かっていたんですが、どうしていいかが分からなかったのです。

ところが、アメリカでは、知的障害の子ども達に自分の意見を言うプログラムを作り、自分の意見を言う訓練を小さなときから行っています。だから、アメリカでは、かなり強く自己主張をされています。これを見たとき、日本での家族とか、教育とか、私たちのやり方が間違っていたなと思いました。もっと知的障害の方が、言葉ではなくても自分の気持ちや意思を表示表現できるような関係を作らなければならなかったのに、「お母さんが知ってるから言わなくてもいい」「僕等が知ってるから、お前は言わんでいい」とできるだけ彼らに発言させないで来たんです。やりやすいように、しやすいようにコントロールしてきた、ということを専門家も親もやってしまっていました。これは大きな間違いでした。これを変えなければ、知的障害の方や

重度の脳性麻痺の方など、言葉は出にくいけれども、いろんなことに自分の意見をしっかりと持ついらっしゃるかたの意見がちゃんと反映されることは今の日本では難しい。だから、他の国といいところは勉強すべきです。アメリカやカナダで使われている、自分の表現をアップするためのマニュアルをもらってきてましたので、いま、大阪の生野市のなかまで翻訳したり、日本に合うようにプログラムを作つておられるようですから、活用できたらと考えております。

三つ目。精神障害者の問題です。私は、精神障害の方の問題に強い関心を持っています。というのは、自分の仲間に精神障害の方が結構おります。精神障害の方というのは今まで、根強い差別を受けてきました。精神障害者というのは、なんか危険な人間というか、怖いのではと言われてきました。もちろん、仲間である皆さんは、付き合いのなかでそのような偏見はなくされたと思いますが、やはり根強い差別、偏見を受けていらっしゃいます。共同連の中にも精神障害の方の作業所、事業所の仲間がいっぱい入つていらっしゃると思います。かれらは、今地域のなかで相互理解を求めて、苦労されていると思いますが、じつは、その話を他の国で聞いてきました。

スウェーデンでも実は、精神障害者のグループホームや作業所を作るときは、反対運動が地域で起きるそうです。スウェーデンなどでは身体障害や知的障害の方のグループホームやケア付き住宅などができるときは、もうほとんど反対はありません。でも、やはり精神障害の方に関しては、まだスウェーデンのような国でも反対運動が起こって、自治体の役

さんなどが説明にいかれると聞きました。ただ違ったのは、行政の側が運動している人の側にたつて、反対されている方にきっちり説明して、それらをきちんと作つていかれるそうです。日本では、そこまではやりません。日本では、地域で、草の根でどこまで当事者の方が運動しているかとか、運動のやり方、考え方などに考えていくべき点があると思いました。日本の行政を変えていくために、これから焦点となるのは精神障害の方のこういう活動だろうと思います。ですから、「セルフ・ヘルプ」と書きましたが、精神障害者の当事者活動というのが、今後連帶する仲間たちとなっていくと思います。

イタリアの幾つかの州では、精神病院がないのです。精神病院がないのだから、きっとすばらしい活動をしているのだろうと思いましたが、精神病院はないけれども、当事者の活動もほとんどないのだそうです。行政と精神病院の医長さんが決め手、廃止したのですが、精神病を持って地域で生活されている当事者の方達は、ばらばらなので大きな力を持っていないのです。世の中を変えていくように、力を持っていないのです。やはり、行政主導型ではいけないです。地域で活躍する精神障害者のグループ、地域で生活する当事者の団体がなかったら、本当の意味で地域に根ざすものは生まれてきません。当事者の活動がぜひ必要なのです。

4番目。北欧やヨーロッパはすばらしい状況だと、みなさん思われていませんか。スウェーデンでは、地下鉄は素晴らしいです。が、建物や道路には結構段差もありますし、使えない建物も多くあり

ます。当事者の運動が弱く、行政主導でやってきましたから、新しい建物や行政が権限を発揮できるところには大きな変革があったのですが、古いものや障害者がちゃんと運動できていないものなどは、弱いものがあります。スウェーデンやデンマークなどホームヘルパーさんも充実している、介護者の仕組みも、いろんなものが出来上がってますが、当事者の強い活動がないところでは、本当に地域を変えていくのは難しいです。あるグループホームでは、8畳の大きな部屋を持っておられ、花も飾られ、家具も素晴らしいが……（中略一聞き取り不能）

日本の障害者運動のなかで、まだ大きな力を持っているものに各障害別の全国組織があります。国からいろんな施策が出ると、そのためのお金が各自治体の身体障害者団体連合会（身障連）に出るわけです。つまり、日身連（日本身体障害者団体連合会）にお金が出るわけです。だから、そういう大きな団体が、まだお金の中心を握っています。このお金がどんな風に使われているかが、我々にはわかりにくい状況がまだ日本にはあります。しかし、今後も日身連と無関係に活動していくのか、あるいは何らかの交渉を持ちながら活動していくのか、中に入り込んで活動していくのか、皆さんが力量を付けられて検討していかなければならないことだと思います。

ただ、大きな全国組織というのは、古い意識を持っていらっしゃる方が多い、簡単に変えていくことができません。だから、どんなふうな関係を持ったらいいいのか、難しいです。各障害別全国組織の運動というのは、ある意味で少しあは、日本の福祉を前進させるという面での役割

は持っていました。しかし、今後皆さんの運動を支持せず、草の根の活動に逆にマイナスの作用を及ぼすようであれば、どんな風に彼らに切り込んでいくのかを考えざるを得ないと思います。

それから2番目に「青い芝の会」の運動です。名古屋に「精神病者集団」という集団があって、病院に入院しながら活動して病院を批判しているグループの方がこう言いました。「私たちがいま一番共感しているのは、日本青い芝の会の運動だ。あの運動が我々のモデルだ。」

「精神病院のなかに時々、りっぱな医者がいて、かれらは我々にヒューマニズムとか愛とか正義とかおっしゃる。しかし、彼らは我々を二十年も三十年も精神病院に閉じ込めていて、なにが愛や正義だ。そういう愛や正義という言葉は間違っているんじゃないかな。我々を本当に支援するなら、地域で共に生きていく仲間、草の根の中でともに生きていく活動を支援することが大事じゃないかな。専門家の愛や正義を否定する、といった青い芝の会の運動が我々の原点だ。」

私は、青い芝の会が日本で歴史的に果たした役割は大きいと思います。障害を持っている方も、自分たちで考え、決定する、行動する。我々も同じ人間なんだ、とはっきり私たちに教えてくれたのは青い芝の会なんです。こういう運動基盤の上に、今皆さんのが地域で当たり前に、胸をはって生きていける。そういうことを教えたのが、青い芝の会の運動だったと思います。これから、精神病者の方も、はじめはかなりラディカルに運動されて、共に生きる草の根の運動に入られる原点に立たれたと思います。

つづく

## 12月の日報から

- 12月1日 販売（長嶺小学校）／片付け  
 2日 積み出し／くまもと生協パック作業  
     パック洗い  
 3日 ワープロ打ち／忘年会連絡（野口）  
 4日 忘年会連絡（野口）  
     ワープロ打ち（久島、緒方、入江）  
 6日 忘年会連絡（野口）／パック洗い  
 7日 火の国ハイツ販売（久島、緒方、吉村）  
     画図小学校講演会（倉田、市瀬、溜淵、入江）  
     ダンボール回収、パック回収  
 8日 通信印刷（倉田、久島、野口）  
 9日 積み出し／通信発送作業  
     求職依頼（熊本職安）  
 10日 忘年会の準備  
     ワープロ打ち（久島、倉田）  
 11日 忘年会  
 13日 商品棚片付け（野口）／片付け  
 14日 パック回収（稲田、尾の上、健軍、桜木  
     東町、託麻西小学校）  
 15日 営業（倉田）／くまもと生協パック持ち込み  
 16日 パック積み出し／営業（大久保、倉田）  
     販売（芳野中学校）  
     配達（菊地高校、ムサシガ丘北小）  
 17日 パルプ作り／パック連会議  
     ワープロ／営業  
 18日 ワープロ  
 21日 パック回収（合志、南が丘、出水、出水南  
     楠、画図小学校、岡田コーヒー）  
     配達（山ノ内小学校）  
 22日 紙すき 販売用意  
 24日 販売（松橋養護学校 緒方、久島、杉村、  
     下山）  
 25日 個人学習診断テストチラシ配り（緒方、  
     倉田）／年賀状作り  
 27日 葉書アイロンかけ（緒方、野口）  
 29日 大掃除 年賀状作り  
 30日 年賀状作り／ワープロ（久島、入江）

## 12月のパック回収から

12月6日	西原小学校	20 kg
7日	甲佐小学校	100.6kg
	一新小学校	83.4kg
	池田小学校	85.2kg
	麻生田小学校	106.8kg
9日	熊大生協	21.3kg
14日	稻田小学校	50.5kg
	近所の人	2.5kg
	東町小学校	24.1kg
	尾の上小学校	92.2kg
	健軍小学校	51.3kg
	託麻西小学校	29.7kg
	桜木小学校	88.7kg
15日	ホープ印刷（今村様）	1.5kg
	キッチン岡田	2.7kg
	帯山小学校	79 kg
16日	芳野中学校	27.9kg
17日	ヤマギシ	62.6kg
18日	月出小学校	111.1kg
	清水第二幼稚園	40.5kg
20日	リサイクルの会	31.6kg
21日	合志小学校	35.5kg
	南ヶ丘小学校	59.1kg
	楠小学校	48.3kg
	岡田コーヒー	18.7kg
	出水小学校	47.5kg
	出水南小学校	96 kg
	画図小学校	85.3kg
	健軍東小学校	241.3kg
	ソロブチミスト	21.2kg
	山ノ内小学校	62.8kg
22日	南小国婦人会	52.2kg
24日	ライン工房	7.2kg
27日	カプリ	25.5kg
	迫水小学校	145.6kg
	泗水東小学校	36.4kg
29日	スーパーレットタニダ	51 kg
	大家さん	0.7kg

〒862 熊本県熊本市保田窪本町5-29  
 くまもと障害者労働センター

TEL・FAX共通 096-382-0861

編集長 久島 雅樹

一九八〇年五月十三日第三種郵便物認可（毎月三回一・五・十の日発行）  
 KAPD 通巻222号 発行人 熊本県身体障害者団体定期刊行物協会 熊本市民国府三丁目二二一八九（定価五〇円）